

# いくせい



98号

- ・エアロビチーム大活躍
- ・総合相談センターから「こんにちは～！」
- ・カレンダーメモ

発行 平成24年4月6日  
発行所 田原市手をつなぐ育成会  
発行日 毎月第1金曜日

2月26日「健康のための体操フェスティバル」に参加したエアロビチームが、4月22日(日)の育成会総会の時に、ダンスを披露してくれます。ぜひご覧下さい。



「アンコールタイムには残れなかったけど、踊るのが楽しかったです。」という、悠平君。みんなのびのび、楽しそうに踊っています。



「2、3分で、終わっちゃうよ。」  
「それでもいいの？」  
総会で踊ってもらおうよ、という話があった時、こんな会話がありました。短時間でも、一瞬でも、ずっと心に残っていることってありますよね。目の前で、楽しく踊ってくれるエアロビチームは、きっとみんなに元気と感動をくれることでしょう。障害児・者の余暇を充実させたいという願いで始まったグループ活動が、継続して充実しているのは、とても嬉しいことだと思います。みなさん、応援よろしくお願いします。

田原市手をつなぐ育成会総会は、4月22日日曜日、午前10時開始の予定です。

年会費(3000円)の納入も、よろしくお願いします。小規模ですがバザーもありますので、少し早めに来ていただくと助かります。なお、当日参加できない方は、会費を社協の伊藤さん、またはお近くの役員に届けて頂きますようお願いいたします。

## 4月・5月のカレンダーメモ

### 本部事業

総会	4月22日(日) 10:00～	福祉センター	大会議室
訓練会	4月15日(日)	福祉センター	10:00～

### グループ活動

・エアロビ	4月7日(土)	午前10:00～	ボランティアルーム
	4月21日(土)	午後7:00～	多目的室
	4月22日(日)	総会で踊ります。	
・きららクラブ	5月13日(日)	色あそび	福祉センター
・カラオケ	4月20日(金)	高松市民館	19:00～
	5月25日(金)	高松市民館	19:00～
・さくらんぼ	4月8日(日)	買い物	
	4月29日(日)	定例会	
	5月20日(日)	おたのしみ会	

### 会員の資格

毎年、少しずつではありますが、若い方の会員さんが増えています。

20年ほど前までは、特殊学級(特別支援学級)に所属すれば、自動的に「手をつなぐ親の会(育成会)」に入ることになっていました。学校の先生が、事務局を担当し、学校の行事(特殊学級部会の行事)が、手をつなぐ会の行事になっていたのです。

「卒業しても、行く場所がない」「学校が休みの時は家の中に閉じこもってばかりいる」・・・「なんとかしたい」という思いで、社会資源の充実を目指して運動した時期もありました。

福祉も充実しつつあり、相談センターもできて、・・・でもまだまだ「障害児・者が暮らしやすいまち」になるための課題はいっぱいあると思います。会員の皆様のその「課題」を出しあって、一つ一つを解決していくことが「暮らしやすいまち」につながるのではないのでしょうか。

「入っても、協力できないかもしれない」とか「活動に参加できないことが多いから」という理由で入会を戸惑う方がいらしたら、「いてくれれば、それだけでいい」「障害児・者の幸せを願ってくれるのが会員の資格」と言いたいなあと思います。小さな力の足し算で、大きな力になると信じています。

会員になりたい方がいたら、ぜひ誘ってくださいね。田原市手をつなぐ育成会は、随時会員を募集しています。

### ・・・ もうすぐ100号

お気づきの方もいらっしゃると思いますが(たぶん、いないと思いますが)今月の「いくせい」は、98号。順調にいけば24年度6月で、100号になる予定です。最初は不定期の発行から、2ヶ月に一度となり、今は毎月の発行を積み重ね、十数年かけての100号ですから、「特集号にしたいなあ」と思っています。紙面についての要望、投稿など、大歓迎です。お近くの役員まで、お知らせ下さい。

「障害児・者が暮らしやすいまち」になるように、という願いを込めてこれからも継続して参ります。ご愛読、ご協力をよろしくお願いいたします。 広報「いくせい」編集部一同

# 総合相談センターから「こんにちは～！」

その十

「教育との連携は「田原市育成会」さんの おかげなのです～！」の巻

お昼ごはんを総合相談センター近くにある うどん屋さんでとっていると、後からお声かけ下さる男性が一名。そこには2年前、総合相談センターに設置された教育委員会「学校運営サポートチーム」のリーダー太田元校長先生がおみえになりました。「ごぶさたしております。」と深々と頭を下げられる太田先生に「こちらこそですう！」と負けないくらい頭をさげる あらい。基本的に先生から声をかけられると『叱られる...。』と ドギマギするのです。この会話も実はぎこちなかったりして...。はは...

今、田原市は「教育」と「福祉」の連携が、他市に比べ比較的に進んでいるという評価を頂戴しております。ありがたくもあり、こっ恥ずかしくもあり。でも。この連携は、やはり「障害児学校介助員派遣事業」の始まりが大きなきっかけであったことはいまでもなく。自立支援協議会全体会議の会場で、トヨタショックの大打撃の影響で財政的に厳しい市として実施が難しいと判断せざるを得ない状況の中、会議場で委員皆さんに対し、涙ながらに「待っている方がいます！」「私たちがやれることは何でもします！」と実施を強く訴えられ、委員皆さんの思いを「何としても実施へ」に導かれた花井会長がおみえになったからに他なりません。

翌年4月。無事に「障害児学校介助員派遣事業」は開始されました。5名の田原市の子どもに、この支援が届けられました。3年目を迎えた今年度は9名と着実に増えてまいりました。親御さんは勿論のこと、教育委員会や学校から、この学校介助員派遣を熱望されるまでになりました。正直、実施に至った時には、これほどの役割を担わせて頂けるとは思いませんでした。



もっと言うと。昨年度末に開催された教育委員会主催「田原市特別支援教育支援事業運営協議会」の席上、その教育委員会 杉本主事さんから

「学校介助員制度等の導入をきっかけに、同じ子どもや保護者を支援する立場として福祉や就労に関わる関係機関との連携の重要性が、学校現場でも認識されてきた。始まった取り組みをもとに、課題や成果を明らかにし、相互で補完し合いながら今後も連携を進めていきたい。」

と仰って下さったんですう～！これ、文章にもなっていて、委員皆さんに配られたんですよ～！も～泣きそうでした。報告される杉本主事と目が合う度、その杉本主事の報告の一つ一つに頷かれる河邊教育活動コーディネーターを見る度に、泣きそうになりました。『報われた』と思いました。これは、あらい個人だけの思いではなく、田原市育成会さんの思いでもあります。

でも。「これでヨーシ！」なんてことはありません。田原市で生まれて良かったと思って頂けるまでには、田原市育成会さんの思いに応えられるまでには、まだまだ「これから！」です。これからも、教育に関わる皆さんから「もっと」気軽にお声かけ頂けるよう、田原市障害者総合相談支援センター一同、奮闘してまいりますゆえ、ご指導・ご声援のほど、よろしく申し上げます。